

をめぐる 神戸っ子達

赤尾 兜子さん〈俳人〉

この人もサムライである。「口に特徴があるやろ……ハッハッハ」と歯の特徴をご存知である。「言わんでもわかってまっせ」と優しい眼が笑っている。この人の笑う眼が好きだ。私だけではないだろう。



畑 専一郎さん〈神戸新聞主筆〉

どこからとっても、絵になる顔。だから、無難なオシヤレが板につくのだろう。ネクターをゆるめてポツポツと話をしながら、ギョッと締った意見を持ってくるからコワイ。



KYのママ〈山内小芳さん〉

この人も、大きな目が魅力なのにこの本人は気に入らないらしい。その特徴をつかもうとしたりバツと目をふせる。バツと見る、バツとふせる。一緒に大笑いをした。

春川 和子さん〈ラジオ関西プロデューサー〉

独身だとはかり思っていたら、ダンナさんがあった。しかも奇術の先生である。さすがにあざやかなもの。どこにかくしていたんだろう、可愛い顔して……。





青木 啓さん 〈ラジオ関西社長〉

年上だから先輩というのではない。‘あれ、
のことも‘これ、のことも教えてほしいよう
な頼もしさを感じる。『くだらネエ 事を言わ
ずに飲めよコラ / もう……』



連載
もうさん



柴田 旭堂さん 〈邦楽家〉

美人である。さぞかし若いときは……と思わせ
る。『師匠さんは和服が似合いますなア』『ハー
娘が夏で服着んといてと置いますねん』がわか
ってはるわかってはる。さすが宝塚女優である。
私の横のビウニコニコしているみたいだった。

中川 浩安さん 〈宝地院〉

歌、落語、はては練踊り、このお寺の宴会は
極楽である。何もかもお見通しの御本尊の前
で、かくしきれなく芸が出る。お匠さんも浮
かれてジャンガラ節でボンボコボン。



小林 省三さん 〈サヴォイのマスター〉

いつもパーティでワイワイ飲んでたので
ある。もうさん「忘れたらあかんがな
の」「あ、そう、あんがサウイをやってん
の」「もうさんにかかったらかなわんなア」
私も年だなア



をめぐる 神戸っ子達

重森 守さん〈朝日新聞集編委員〉

描きやすいと思っていたのが、どこで間違ったか、どうしてもつかめない。モタモタしていると「文章もサラサラと書けたものは生きてますね」わかっておられる。さすが事件記者のベテランですなあ。



松井 一郎さん

〈神戸文化ホール館長〉

「コラ、もう、おれの「老體」をささして何にするんだ」と大音声でグラスを差し出す豪快な酒豪「いや、いや、もう」



安富 幸子さん

〈朝日新聞ライオンズクラブ〉

男のように仕事をする優しいお母さん。豊かなフニキはキャンベラ号、女性と船、船と安富さんですなあ。



ファーストバブのママ〈大前陽子さん〉

可愛いママが、大きなお店をきりもりをする「働かざる者なア」「魅力がありますなア」「ここはこのママで持ってますなあ」客の声をロクオン。「ホメスギ」バーテンの声。





足立巻一さん〈詩人〉

この人には似てヨワイ。「もうさん、横から描いたら一発でさすがるが、自分の顔をこ存知である。そう言われると横から描く気がなくなつて、正面から苦労して描いていたら「ワッハッハー」と笑う。



連載
もうさん



堀 郁子さん〈シャンソン歌手〉

シャンソン教室でスケッチ。リズムに合わせてタンタカタン? と描いた。「大変結構でした」私に言ったのではない。「ハイ次はどなたでしか……」シャンソン教室はにぎやかだ。

鈴木

洗さん〈六甲音楽学院々長〉

傘の会のメンバー。宝塚の音楽の先生、美人ばかり教えていたのだからうやましい限り。美しい顔で、美しい声の奥さんを持つ、ウナズケル、ウナズケル。



ヌーヴォオのママ〈木村美佐子さん〉

中村玉緒に似ているママ、本人はすこく気に入らないこの絵を、マスターはすこく喜こんでいる。そこで夫婦げんかが始まる。客が喜ぶ楽しい店である。



SALON KOBETIDAI



ファッション時代のミニ・サロン

月刊神戸っ子では、この度、サロンを開設することになりました。北野町、山本通界隈のファッションナブルな通りに面したコンパクトなたまり場です。

スナック・スタンド風のサロンということになります。名前は新しい神戸時代を目指して“神戸時代”という風変りな名前をつけました。

神戸っ子の憩いの広場であったり、談論風発のサロンにもなり、ミニパーティがひらかれたり、ミニ発表会が行われたりで素晴らしい情報交換の場になります。

何卒お誘い合せお越しく下さい。

毎夕5時半開店（日曜は休み）

SALON 神戸時代

神戸市生田区中山手通1丁目28

シャトーコトブキビル 1F

TEL 242-3567





聖線

Vol. 12

解散

岡田淳





Air Mail from New York <19>

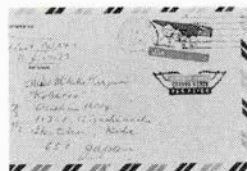
どこで飲むか？

竹田 洋太郎 <在ニューヨーク>

え・たかはし もう



筆者



神戸では毎晩、まちがいなしに毎晩、町のどこかで飲んでいて私が、ニューヨークへきて、いったいどんなところで飲んでいるかは、なんんかの友人の好奇心の的と見えて、ときどき手紙で「ノンデマスカ？」という質問をいただきます。

答えは「ノンデマス」——しかし、神戸にいたときとちがって、どこで、だれと、どのように、ということになると、神戸とはやはりちがいます。ただ、私はどうかということとは別に、ニューヨークでは、ここにいる日本人はどこで飲むか、という点にしほります。

まず、会社の帰りにオデンかなにかで、ちよつと一杯やる——こういう飲み方は米国人のサラリーマンもやります。オフィス街にはそういう人たちのタマリになる店があつて、生ビールと、好みのソーセージとか軽いサンドイッチ、その生ビールも、友達三人くらいなら、一ガロン入りの超大ジョッキを注文して、適当につきながら飲むのも楽しいものです。

こんな店は日本と同様、グラランドセントラル駅（日本人商社マンはここから郊外へ出る列車で通勤する人が多く、彼らはここを「グラセン」と呼んでいます。サンチカウエロク等と同じ呼び方です）、ペンセントラル駅、西へはバスによる通勤だと、ポートオーソリティー（港湾公団）経営のバスターミナルといったところのビルや、

地下の商店街にたくさんあります。私はニュージャージーへ帰るので、ポートオーソリティーにいきますが、このターミナルだけでも、チャンとしたバーが三軒。その一つは生のハマグリやシーズンにはカキをたべさせ、それでビールかマティーニをイッパイ、となるわけです。

私がよくいくのは、バスのプラットホームに近い二階のバーで、カウンターで立ち飲みもよく、イスにすわるのもよし。ただ、たべるものではなく、ツマミのブレッツェルか、クッキーに勝手にビーナッツバターをつけてたべるのがサカナ。これはタダ。水割り一杯（スコッチ）一ドル三〇（税コミ）、これにチップを二〇セント見れば、大体一ドル五〇と見ていいでしょう。

ここでパートタイムで働いているオバサン（といつても私より若い、そんな感じ）が、私がいくと「ハイ・ハニー、マティーニ、アズユージュアル？」——いつもの？——といった調子でもってきてくれます。どういうものか、ニューヨークでも酒飲みは貝類が好きらしく、イタリヤ系の店で、ハマグリや、ときにはイカのフライに唐ガラスのきいたイタリヤンソースをかけたのをサカナに、ワインを飲むのも安くていいものです。

もちろん、高級な方では、クラブ組織で、店の構えから、マネージャの服装まで、すべて禁酒時代をかたどり、古いスタイルのジャズにあわせて女の子が足をあげ

てくれるところも、夜の十時ごろからはいいところですが、これが普通のサラリーマン。日本人、ここにこちらで働いている人となると、また別の場所があります。私の会社の近くにも日本料理店にバーがある。つまり、テーブルの場所とは別にカウンスターで飲む場所があります。これは、酒類（蒸留酒、ウイスキー等）を売るライセンスをもっている店には必ずある。もう一つのライセンスは、ワインとビール（醸造酒だから日本酒もある）を置く店。そのうちのウイスキーを飲ませる店で、会社の帰りにトグロを巻いていると、顔見知りの日本人が、「ヨウ、竹田さん、おげんき」などといって、アメリカ風にビールのおごり合いをしていると時間のたつのを忘れ



「ニューヨークで海軍軍歌をやりたいね」

る。こういったところで「オーノヨーチャン」と呼ばれて驚いたのが、たまたま食事に来ていた神戸の写真家の西村雅司さん——といったこともあります。吉兆、しんばし、稲ぎくなど高級日本料理店にも必ずこうしたバーがあって、満員のときは席の空くのを、ここで待つという仕掛けになっています。

もちろん、こんな店で刺身やヌタ（こんなものを好む若い人は日本でもこちらでも同じ）、冬は湯豆腐、夏は冷奴、日本酒は灘のものを注文して、オダをあげてもいいわけですが、近ごろ日本料理店のお客の三分の二は米国人で、いとも静かに女性と語り合いながら食事しているから、大きな声を出すわけにはいきません。

そこで十時ごろともなれば、若い人、社用族、つまり米国人の取引先の接待、それにウサバラシ（外国に住むと、このウサバラシが時には必要）が出かけるところが日本人向けピアノバー、となります。いつてみれば、神戸の外人がウサバラシに米英の軍歌や校歌、ナツメロをどなっているディキシーランドのちよとど裏返しで、古いところでは「有楽町で逢いましょう」から、直輸入の小坂明子の「あなた」まで、お客の下手さを伴奏でおぎなう、司会兼演奏してくれる女性をかこんで、飲みながら歌うというのがこうした店で、中には日本同様、「アーラ、いらっしやい、お久し振り」と横へすわってくれる女性もいる店がずいぶんふえました。本当はこれニューヨーク市の条例では処罰されるんですがね。

だがこんな特殊な店は値段もときには銀座なみ。比較的安いところもありますが、とくに独身、あるいは単身赴任の男性にとっては、必要欠くべからざる店でしょう。神戸の作家、杜山悠さんみたいに、日露戦争の歌「戦友」を最後まで歌って、なみいる日本人をシーンとさせてしまったある商社の支店長もありました。というとかはしもうさん、いっぺんニューヨークで歌ってみたいと思うでしょう。



淀長立見席

35

映画音楽始末記

淀川 長治 〈映画評論家〉

明治二十六年（一八九三）にアメリカのエジソンが活動写真のはしりのキネトグラフを発明したころには、ドイツもフランスもイギリスもソビエトも、実はみんなそんなモノを発明していたのであった。

文明開化というものはどこか同時に、なんとなく一緒に生れてくるものらしい。

やがて大きな白布（スクリーン）にこれを映写して、みんなが一緒に見られるようになったのが明治二十九年のニューヨーク。それより先きの明治二十八年のフランスはパリ。



「アマルコンド」(右)「カモメのジョナサン」(左)。

その明治二十九年に、神戸の神港倶楽部が日本最初の活動写真の初公開をした。

画面に水まき電車が現れると、見物の連中はすそをまくって総立ちになった。びしょ濡れやとビックリした。

このように活動写真はほんまみたいに見物客を驚かせた。

つまり活動写真こそリアリズムをもってこの世に誕生した。そのため実はこのマカフシギなる科学の発明は、その最初から「音」をも求めて苦心した。

それで早くも明治二十九年。ドイツはオスカ・メスターの発明に依る「ビオフォーン」。フランスはメリエスによる「トーカー」。アメリカもまたエジソンに依る「キネトフォーン」を公開したのであった。

写真が動くだけでは我慢できなかったということは、実にずうずうしく慾が深い。

やがてこのキネトフォーンは大正二年（一九一三）日本でも公開された。だから今年八〇才を迎えた御老人などは、すでにトーカーを六〇年前に早くもこれを見て聞いていらつしたのである。

かく申す私も兵庫の大仏さんと呼んだその大仏の寺の境内でこれを見物したものだ。

それは天幕の移動映写興行のごときもので「さあ、いらつしゃい、いらつしゃい」の呼び声につられて覗いたのであった。それは私の六才くらいのことゆえ数ええると大正



活動写真は、誕生の時から「音」を求めてリアリズムをもって観客の前に登場した。

ドがうまく合致しなくて、これは沙汰止みとなって……。大正からその大正の終りまでがサイレント（無声）時代。

そして大正十四年（一九二五）にいたり日本での初公開（アメリカでは大正十二年）のリー・デ・フォレスト発明の「フォノフィルム」でトーキーはついにフィルムから音を発する時代を迎えた。これを私はこの年の十月だったと思う、神戸の楽楽館でビクッリ胸高ぶらせて見て聞いた。

それから五〇年。今や映画はその主題曲を楽しむどころか、その音楽が映画芸術の生命のすべてみたいになっちまって、「かもめのジョナサン」も「アマルコルド」も、いやあのサイレントの王様のチャップリン映画でさえ「街の灯」をあめメロディをもって泣きに映画館へゆくありさまだ。

それではサイレントのころはさぞや音楽とはまったくの無縁とは、まさか思われはすまいが、さぞかしつまらん（音楽）ものであっただろうとは……大まちがい。

映画を愛し、そのシーンの伴奏音楽に酔った人たちはさっそくその映画館に電話をかけ、その楽譜を手に入れて、自宅のピアノで演奏したものである。

もつと熱心な神戸のある家庭では、ついにその映画館の伴奏楽団を劇場がはねた午後十一時からあらためて我が家に招待し、なにがしかの御礼金を用意してあのシーンこのシーンの音楽伴奏を演奏してもらい、映画の中のパーティ場面のそのジャズ演奏の伴奏音楽を我が家で演奏してもらって、その夜のその客間はたちまちにしてダンス・パーティに一変という陽気だった。

私はいま「フェリーニのアマルコルド」のニーノ・ロータの音楽にフェリーニの体臭を感じてしまう。それは「太陽がいっぱい」の主題曲にアラン・ドロンの過ぎ去った青春をしのぶように、もはや主題曲はその映画の生命の呼吸。そして映画音楽というものは、その映画感覚の鮮やかな演出の一部に成長してしまった。

四年ころだ。大正二年に東京で初公開したそのトーキー・フィルムがやがて二年のちには流れ流れて兵庫の大仏さんの境内に興行師の手をへて登場したのである。画面の女が歌うと、わきのチクオンキから、かん高い鼻のつまった女の歌う声が聞えて、画面の女は大げさなおペラふうの身ぶりを見せる。一回興行が十分間くらいか。

大正二年の東京帝国劇場でのエジソン・キネトフォーンは黒人のデキシ・ランド演奏、木琴合奏、イタリア・オペラ団の一場面、それに尺八、剣舞に日本語の演説などというプログラム。その演説とはこのキネトフォーンの解説であって、とくに日本送りのフィルムに加えたものだった。

しかしやがてフィルムの映写とレコードの回転スピー

女体百景

《29》

H・ジュニア

え・浅野俊一

ベニスの女

ローマからフィレンツェを経てベニス行きの観光バスに、通称アンナちゃんというジーンズルックの可愛いガイドが同乗した。ガイドというのは名目だけで、彼女は黙って座っているだけ。しゃべるのは日本人のガイドだが、日本人はガイドといわず、通訳ということになっている。観光バスには必ずイタリア人ガイドの同乗を義務づけるということは、観光立国のイタリアの苦肉の一策だろうが、アンナのような美人が同乗してくれる場合は、H・ジュニア氏は大歓迎である。

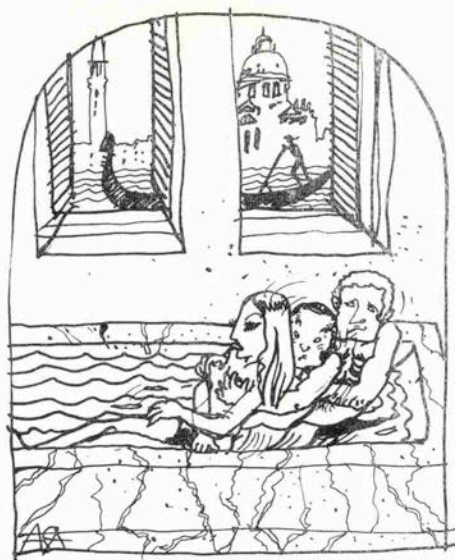
彼女は長い黒髪、つぶらな黒目、広い額と、ヒデとロザンナのロザンナのような顔立ちの典型的なイタリア美人である。彼女は二十才といったが、コリコリした芯のある、花にたとえれば、まだ蕾の若やいだ体つきだ。少年のようにスッキリと引締った腰は魅力的だ。H・ジュニア氏は、その腰を見たとき、去年の暮れ、神戸の〈井戸のある家〉で、マカンブツサールのクリスマスパーティーで同席した三輪明宏の腰を想い出していた。純白のドレスに包まれた彼の腰は、少年のそののように美しかった。彼女の腰も堅くうまいしかった。確かに男心をそそる腰だ。

H・ジュニア氏も、バスが古都フィレンツェを出る頃には、内心、相当食指をうごめかし始めていた。その証拠に、バスが途中、レストハウスに停ったのを幸い、彼はトイレに立ってから、座席に戻るふりをして、彼女のそばまで歩いて行き、ちょうどバスのひとゆれ動き出したとき、よろけて行き、彼女の額にキスしてしまった程度だ。一瞬の出来事で、アンナは抵抗するすべもなく、かすかに耳元を赤らめたように見えた。H・ジュニア氏は、人なつこいひとみで、彼にやさしい笑顔を見せる彼女に、妹に対するような特別な親しみを覚えてしまったのである。

一方、運転手のアントニオ氏は、がっちりした長身で角張った男らしい顔立ちに真黒の色メガネをかけている。陽に焼けた顔の表情は精悍そのものだった。この種のイタリア男が大抵そうであるように、彼もシャツのボタンを上から三つはずして、自慢の胸毛をモシヤモシヤ見せている。たくましいいかり肩で、大きなハンドルを如何にもねじ伏せるといった恰好で、高速道路を、フィアットの大型バスをぶつ飛ばした。見た目の腕もたくましいが、ドライブの腕も立派なものだった。確実で、スピーディで、心地よい。要するに乗客には快適である。頼り甲斐がある。H・ジュニア氏も、自然に彼に好意を持ってしまった。トイレ休憩の時、冗談半分に、彼の胸毛をさわったことから、アントニオ氏は、H・ジュニア氏と目が合うごとに、流し目で、につこりウインクし始めた。休憩などで乗降の際、アントニオ氏は、イタリアノ特有の気さくさで、女性の手をとりサーヴィスに努め、普通、男の客の手は取らないが、彼は、H・ジュニア氏だけは、強く手を握ってエスコートしてくれるのである。

こうして、バスが水の都ベニスに着く頃には、アントニオとH・ジュニア氏とアンナちゃんとはそれぞれある特別な親密さで結ばれていたのである。

三人は、その夜、ホテルの近くのサンマルコ広場のカ



フエに憩うて夜のふけるのを忘れた。三日月も美しい。
H・ジュニア氏は二、三日ベニスに滞在するのだが、二人は、今晚だけ、H・ジュニア氏と同じホテルに泊り、明日早朝にローマへ帰るのである。

「何とか、今夜中に、アンナをものにしなければ」と、H・ジュニア氏は先程からずっと考え続けていた。一時過ぎ、漸く三人はホテルに引揚げたが、廊下でアントニオはH・ジュニア氏の肩を抱いたまま離さない。一緒に風呂に入ろうというのである。彼の腋臭がものすごい。

すきを見て、H・ジュニア氏は逃げ出してアンナの部屋へ、彼女の後についてこるげ込んだが、アントニオはニヤニヤ笑いながら平気で後から部屋に入って来てバスに湯を入れ始める始末。彼は、何バスであれ、バスの運転はよほど得意と見える。

そればかりか、アントニオは、アンナのいる前で平気で裸になり始めるではないか？ そして、H・ジュニア氏をも促して裸にさせた。アンナは、一見、はにかんで見ているだけである。

「アンナ！」

と、H・ジュニア氏は呼びかけたが、アントニオに背後から、羽合攻めよろしく、組みつかれてどうにもならない。しかも、巨大な黒大理石のバスの底にアントニオは自ら、H・ジュニア氏を抱いたまま仰向けに寝た。その時、アンナもまた脱ぎ始めるではないか？ 一体これはどうなっているのか？ バスの底で、H・ジュニア氏はじっと目に神経を集中した。アンナは次々に脱いで行く。

あっ！ 外人にしては平たい胸が出て来た。アンナはお乳が小さい。次の瞬間、もつと恐ろしいことが目の前に展開した。彼女はパンティを脱いだ。H・ジュニア氏は生つばをのんで次の光景を見た。
あっ！ アンナの股間には、何とまぎれもなく男性のシンボルがぶらさがっているではないか？

それは、異様な不思議な光景であった。信じ難いことであつたが……。

長い美しい黒髪！ つぶらな瞳！ 他の部分は女であり、しかも、アンナがしゃがむと、男根は上手に後方にはさまれて、股間に消え女になった。彼女は、私に背を向けて私の上に重なって来た。アントニオは、H・ジュニア氏のバックを攻め始めた。H・ジュニア氏は否でもアンナのバックを攻めねばならぬ！

湯にヒタヒタと沈んで透ける白いアンナの下肢は、ものとい、内股とい、彼の欲望をそそる神々しい美しさであつた。次の瞬間、H・ジュニア氏の全身は、後方から一本の剣で突きさされたように、足の先から頭の先まで電光が走った。彼は必死でアンナのかわいい乳房をつかんで堪えた。

次の瞬間、湯舟に、白い雲のようなものが幾条かスーと、浮び上って流れた。

「ベニスの屋根の下、精液は流れる！」

さすが、ここは水の都ベニスだ。

「ベニスの女に、ベニスがあつて何の不思議があるう！」

ぴっと・いん



★あなたも、もうひとりの

あなたと出会いませんか

《もうひとりのあなたと

の出会い》をテーマに、黒

と白とで統一されたティ

ールム&フアンデーション

専科「ブランシェール」が

神戸の街角にお目見えした

ゆったりとした椅子、心

地よい音楽、そして、熱い

珈琲……。ティールームは

会議や商談の場としてもビ

ッタリです。



会議や商談にも最適のティールーム

一流メーカーのフアンデ

ーションやランジュエリーを

専門のアドバイザーによつ

て試着しながら選べるステ

キなフアンデーションルー

ムが隣合っています。

あなたも一度「ブランシ

ェール」へいらっしやいま

せんか。

生田区江戸町九五 神戸市役所の裏

《ティールーム》8・30AM〜8・

00PM 〆三九一・四一六八

〆三九一・四一六八

〆三九一・四一六八

〆三九一・四一六八

〆三九一・四一六八

〆三九一・四一六八

〆三九一・四一六八

〆三九一・四一六八

〆三九一・四一六八

〆三九一・四一六八

〆三九一・四一六八

〆三九一・四一六八

〆三九一・四一六八

〆三九一・四一六八

〆三九一・四一六八

〆三九一・四一六八

〆三九一・四一六八

〆三九一・四一六八

〆三九一・四一六八

〆三九一・四一六八

〆三九一・四一六八

〆三九一・四一六八

〆三九一・四一六八

〆三九一・四一六八

〆三九一・四一六八

〆三九一・四一六八

〆三九一・四一六八

〆三九一・四一六八

〆三九一・四一六八

〆三九一・四一六八



奥のテーブル席ではパーティーもできる

また、スイス、ドイツ、



新しい店「ロゼ」案内図
姉妹店「こだま」共々よろしく

フランスなど世界各国のワ
インが豊富に揃っているの
も魅力(二千円〜四千円)
家族づれや友だち同士、
恋人と、あるいは、ひとり
で、「スイスの味」を心ゆ
くまで楽しんでみませんか
ビール二五〇円、スコッ
チ五〇〇円、スイス料理各
種二二〇〇円〜一六〇〇円
生田区北野町三丁目四八アールドマ
ンション一階 〆三二一・四三三三
12・00PM〜10・00PM 日曜休
駐車場完備

★グリルとドリンクの店

「ロゼ」オープン

長らく「YANAGASA

E」のcock長として親し

まれてきた白菊貞実さんが

このほど中山手にグリルと

ドリンクの店「ロゼ」を開

いた。

●神戸うまいもん とドリンキング

スナック&ブティック
ロティエ

生田区再度筋町三五―一
〆三四一・五二二三

諏訪山の山手女子短大
の西にLOTIEという
お店があります。昔は男
性禁制の店だったのです
が、今は解禁。ご安心下
さい。

さて、あなたが純珈琲
党なら手挽一品珈琲を、
洋酒ファンなら世界各国
の洋酒をご注文下さい。



PetieなLOTIE

それだけではありませ
ん。店内には舶来ネクタ
イやアークセサリーの数
々、そして、エレガント
な女性のためにLOTIE
のブライベイトフレッ
ションが用意されていま
す。

ギターを弾いてマイク
で唄ってはいかがでしょ
うか。弾いて、唄って、
飲んで、LOTIEはそ
んな楽しいお店です。

5・00PM〜12・00AM、土・
日・祭日は1・00PM〜12・00
AM 木曜日休み

12月7日(土)
ファンタジック・マジックショー
アフリカの土人もびっくり!

12月21日(土)
?ショー(お楽しみに)

〈忘れな草の会〉ご案内

この度、菅原洋一と皆様の親睦をはかる
〈忘れな草の会〉が神戸でも発足しました。



入会金 900円
会費(1ヵ月) 200円(但し1年分前納)
特典 記念品、会員証、スケジュール表、会報
などをお送りし、菅原洋一を囲む“集い”をも
うけたりして親睦をはかります。
お問合わせ、お申込みはエル・ヴィノまで



フラメンコの店

エル・ヴィノ

5:00PM~2:00AM(日曜祭日12:00AMまで) 水曜日定休
第1・3土曜日はフラメンコ舞踊のショータイム
神戸市生田区北野町3丁目48 アニルドマンション1階
☎ 241-1344

MERRY CHRISTMAS

白い壁に 赤い薔薇
スペインの夜を想うドンファンで
あなたのクリスマスを……。



am12:00~pm5:00

pm6:00~am1:00

神戸市灘区山田町3丁目1ノ5
阪急六甲北上姫路信用金庫地下1F

Tel 821-6426

★毎木曜定休日

足立 卷一 〈姉妹誌オール関西「夕暮れに苺を植えて」の執筆者〉

やちまた

上・下巻同時発売中／各巻450ページ・写真16ページ 各巻 1600円

没後八年目亡父本居宣長に捧げた不朽の名著「詞の八衢」―本居学の総師として国語学と和歌に生きた春庭の生涯―構想40年・特異な語学者を人生の機微に触れる詩人の鋭い人間観察眼で彫りあげた、新しいジャンルを拓く評伝文学の力作。同人誌「天秤」連載のものを全編終稿し、新出の資料により増補。

東京都千代田区
神田小川町3ノ6

河出書房新社

電話(03)292/3711(代)
替東京10802

●本誌連載の小説〈曲線ハイウエイ〉が好評発売!

LOVE SEX 東京文芸社 ¥730

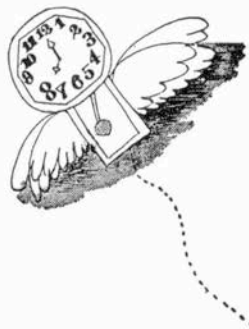
愛と性

武田 繁太郎 著

「愛と性」は話題の「寝室」で夫婦の生生活における女の魔性を描いた著者の最新長篇。現代の若者の行動に仮託して、愛のふかさが味う性の喜び、愛と性の自然なありかたを、曲線ハイウエイで結ぶ問題作。

□好評既刊／武田繁太郎著「寝室」¥790「芦屋夫人」¥550

神戸百店会 だより



★毛皮は美しく豪華に

毛皮ファッションはますますいたくなくモード。今年のコートは傾向は丈がやや長め、ボディにかかるくフイットしたライン、キツネなど毛足の長いロングヘアの豪華さが好まれていきます。ベニー毛皮店の「秋冬ワールド・ファーコレクション」はフランス、カナダ、アメリカなどの世界の有名ブランドから最新のファッションを集め、12月1日国際ホテルで開かれました。今年はベニー毛皮店の創業15周年にあたり、それを



ベニー毛皮店のステキなファー

記念してこのショー、あいにく大島社長が入院中で顔を見せず、日頃の愛顧を感

謝するメッセージが寄せられました。

素材をピンクやブルーなどに明るく染め上げたものや軽快なジャケット、トレンチコート風のもの、ビエール・バルマンの若やいだデザインのもの、真白のマキシマントなどが印象的でした。

★サノへ秋の

キャピタルフェア
元町の「サノへ」が、十月二十二日二十三日と神戸ニューポートホテル舞子の間で、サノヘキャピタルフェア・パリス、コレクション「サノへ」を開きました。

世界一流のクチュリエ、デザール・ビエール・バルマン、クレージュの新作とフランス・イタリーの新しいブレタおしやれ着をつぎつぎに披露。一足早い春ものも加つてのオーダー会はおしゃれなミスやミセスの人気を集めました。

元町店を初め東京渋谷東急百貨店、大阪阪急百貨店のサノヘコーナーに新作が



サノへのショー風景

そろい、トアロードのクレイジーサノへには、スपोर्टーなフレージューのニューファッションが神戸らしく品揃えされています。

★神戸洋服の発展を願って

神戸洋服百年を記念して東遊園地に顕彰碑を建立した神戸洋服商工業協同組合（渡辺利雄理事長）は、顕彰碑建立記念功労者の表彰式と先覚者追悼法要を11月12日祥福寺で行ないまし

た。これは業界の発展に貢献、功績を残した人々への感謝の意を表そうと企画されたもので多くの関係者が集まりにぎわいました。

★大和屋シャツの専務取締役

役長田和夫さんが11月1日急逝されました。享年四十五歳。ご冥福をお祈りいたします。



故長田和夫さん

●ショップトビックス

★あなたの冬ってどんな冬？……北風さんが落ち葉の名刺をもったずねてくるコロンとしたおもしろいコートが、この冬のファッションの三要素で聞いてみました。

●テントラインで代表される今年も新しいコートは大きなフレアが歩くたびにゆれてとても優雅な気分になります。去年のより5センチ位長めが良いのです。

●上品なお嬢さんぶという方は上ヒップのラインまで身体の曲線にあわせてフィットさせたフィッティングコート。コート丈は一寸センチ前後がポピュラーです。

●自由な着こなしが楽しめる軽やかなショールコート。ビッグフレアやタイトスカートとコーディネートさせて。

●あいかわらずの人気はカジュアルコート。あつたかたで機能的なので若くて健康な人から誰でも合うのが大きな魅力です。

●流行に左右されないストレートなシルエットのトレンチコート。小物を使っている人な着こなし。

★トアロードのクレイジーサノへには、今パリで最も人気のあるアンドレ・クレージュのニューファッションがそろっています。いちどのぞいてごらんない。

★新春を迎えと結婚シーズンに入ります。早いうちから準備を整えて優雅なきもちで嫁にゆきたいもの。

★大丸前のつるや衣装店の新作婚礼衣裳展示会は次のとおりです。12月15日貿易センタービル23Fで、1月12日オリエンタルホテル大ホール。打掛は白無垢に人気があり、振袖は赤い地のものが好まれているという事です。白無垢の打掛は最高16万円。10万円前後のものもよく出、また色直しにイブニングドレスを着る人も増えている、というお店の人の話です。

★センター街中川衣装店の新作衣裳展示会は、12月8日オリエンタルホテル、12月15日明治生命ビル1月12日ニューポートホテル、1月18日26日舞子ウィラの予定。